

SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION

for Piano & Violin



仙台国際音楽コンクールニュース

コンチェルト Concerto



第7回仙台国際音楽コンクール

ピアノ部門 : 2019年5月25日(土)~6月9日(日)
ヴァイオリン部門 : 2019年6月15日(土)~6月30日(日)

Vol.7-4

(2019.5.16発行 第7回コンクール関連 第4号)

インタビュー 高関健さん

(仙台フィルハーモニー管弦楽団レジデント・コンダクター)

第7回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門で指揮を務める高関健さんにお話を伺いました。

オーケストラを指揮する上で一番大切にしていることは何ですか。

オーケストラの皆さんとうまくコミュニケーションをとることが、最も大切だと思います。同じ音楽家として一緒に話し合いながら、良い音楽を作っていくことを目指します。また、楽譜をしっかり読み込んで、作曲家のアイデアをよく理解し、実現できるようにオーケストラに伝えることも指揮者の重要な仕事です。

現在特に力を入れていることについてお聞かせください。

演奏活動とともに、このところ若い人たちを教える機会が増えました。現在は東京藝術大学で指揮とオーケストラを指導しています。教えるためには、自分自身が論理的に勉強しておかなければならないことが、よくわかってきました。学生諸君が理解できるように説明すること、それも限られた時間内にどうすれば効果的に指導できるか、工夫が必要です。教えることが結果的に実際のオーケストラとの仕事にも役立っているように感じます。

音楽との出会いを教えてください。

母が音楽好きだったことが影響していると思います。自分では覚えていないのですが、姉のピアノのレッスンと一緒にいったとき、先生に誘われてピアノの前に座らされたのが音楽との出会いでした。ヴァイオリンは小学校に入った頃、鷺見三郎先生に楽器の構え方から教えていただきました。早い時期から一流の先生に教えていただいたことは本当に幸運でした。音楽会にも連れて行ってもらいましたが、最初にオーケストラを聴いたのは近衛秀麿さんの指揮で、最後の曲目がブラームスの交響曲第4番でした。コントラバスが大きいこと、トライアングルとティンパニのカッコ良かったことを覚えています。

指揮者を目指したきっかけを教えてください。

鷺見先生のご紹介で、東京ユース・シンフォニー・オーケストラ(後に東京シティ・フィルとなる)に入団し、第2ヴァイオリンを弾いていましたが、その頃から中心にいる指揮者が良いなあ、と憧れるようになりました。そして中学2年の時に齋藤秀雄先生にお会いしました。齋藤先生から「ヴァイオリンで桐朋学園に入れたら指揮を教えてもいい。」と言われ、一所懸命に練習してなんとか高校から入学することができました。

大学でもヴァイオリン専攻のままでしたが、ほとんど指揮の勉強に集中していました。しかし仲間たちとオーケストラを弾き、室内楽を楽しんだことは音楽的な形成にとっても役立つと思います。3年の時に民音の指揮者コンクールに挑戦したのですが、その時は落選。翌年にカラヤン・コンクール・ジャパンが行われることになり、そこで幸運にも優勝。卒業と同時にベルリンに留学、カラヤンのアシスタントを務めながら、最高の環境の中で勉強を続けることができました。カラヤンとベルリン・フィルの演奏を初めて聴いたのは中学3年の時、1970年の来日公演で、曲目はシューマンの交響曲第4番とリヒャルト・シュトラウスの「ツァラトゥストラ」でした。それまでに聴いたことのない圧倒的で素晴らしい演奏を、無我夢中で聴いていました。あの響きを忘れることはありません。



高関健さん

今回、ヴァイオリン部門の指揮を担当されますね。

ヴァイオリンは自分の楽器だと思っているので、とても楽しみです。審査委員長の堀米ゆず子さんとは桐朋学園で一緒に勉強して、室内楽でもオーケストラでも弾き合った仲間です。要請をいただき、もちろんすぐにお引き受けしました。

コンクールでの伴奏指揮はこれまで何度か経験しています。出場者はオーケストラとの共演の経験が少ないと思うので、できるだけ弾きたい通りに寄り添って伴奏するようにします。でもリハーサルでは、弾き方や音楽的なアイデアが納得できなと感じるときは、自分の経験を基にためらわず指摘するように心掛けています。そこは音楽家同士のやり取りで、良い結果となることも多いと思います。

コンクールの楽しみかたについてお教えてください。

コンクールは普段の演奏会と違い、異なる出場者が同じ課題曲をどのように演奏するか、聴き比べができます。聴き込んでいくうちに自分に訴えかけてくる人、引き込まれていく人が必ず見つかります。その時の喜びは大きいですね。私は最近、指揮者コンクールの審査もしていますが、予選から本選に進む段階で突然上手くなって、光ってくる人がいます。そういった瞬間に立ちえることは本当に楽しいし、不思議なことだと思います。

それから今回、セミファイナルで出場者がオーケストラの中に座ってコンサートマスターをする、という挑戦的な課題があります。近年多くの国際コンクールでの優勝者が、一流のオーケストラに入団してコンサートマスターを務めるようになりました。「ツァラトゥストラ」やブラームスの交響曲第1番のソロをどのように弾くのか、出場者にとってもこれまでにない素晴らしい体験となることでしょう。多くの出場者の中から光を放って優勝する。その瞬間を目撃するためにも、皆さまにはぜひ予選から聴いていただくことをお勧めします。

～How to Enjoy the Competition～

Make a Plan, Get Ready, GO!!

仙台国際音楽コンクールはボランティアも国際色豊か。
今回、日本在住の外国人ボランティアから寄稿された記事を翻訳して掲載します。

5月下旬から6月にかけて仙台では仙台国際音楽コンクールが開催されます。
3年に一度だけ開催されるこのコンクールの楽しみ方をお伝えします。

♪コンクールへ行く前に

どこでコンクールは開催されるの？だれが出場するの？どうやってチケットを手に入れるの？
まずは仙台国際音楽コンクールの公式ウェブサイト<https://simc.jp>をご覧ください。

♪出場者はどんな人？

世界各地の若い才能が仙台のコンクールを彩ります。

世界17の国と地域から、12歳から28歳までの選ばれた78名(4月24日現在)が出場します。



♪一緒に行こう

人が多ければ多いほど盛り上がるもの。仕事の同僚を誘ってみてはいかがですか？

皆で一緒に楽しんで、このコンクールを盛り上げましょう。

♪出場者に声援を

出場者はこのコンクールのために世界各地からこの地を訪れています。演奏が終わったら彼らに敬意を表して拍手やブラボーを送りましょう。お気に入りの出場者に会ったら、応援メッセージを送りましょう。

(2F交流サロンにメッセージBOXがあります)

コンクールは難しいという先入観を持たずに、気軽にリラックスして来てください。

♪マナーについて

コンクールはクラシックの演奏会と同様に、いくつかマナーがあります。携帯の電源はお切りください。

また演奏中は席を立つことはお控えください。すこしの気遣いでコンクールをより充実したものにすることが出来ます。

仙台国際音楽コンクールならではのセミファイナルに注目！

セミファイナルは予選を通過した各部門12名の出場者で競われ、ピアノ部門ではベートーヴェンの協奏曲の課題曲、ヴァイオリン部門の新機軸の演奏課題等により注目度抜群です！

ピアノ部門では前回同様、ベートーヴェンのピアノ協奏曲で全く異なる性格を持つ第3番、第4番のいずれかを選択します。第3番は5曲のピアノ協奏曲の中で唯一短調で、情熱的な旋律が特徴です。ピアノのパートは、ハ短調の力強い音階で始まります。重厚なオーケストラとピアノの独奏が相まって、ピアノ協奏曲史上画期的な交響曲的側面を持つ作品です。ピアノの演奏においては、重量感を全面に押し出すだけでなく、オーケストラの綺麗な旋律に乗り、流麗で透明感のある音作りが成されるかが聴きどころです。

第4番は独奏ピアノによる優美な旋律から始まります。伴奏役に徹しがちなオーケストラと、ピアノを対話させるかのような手法が採り入れられています。重厚で壮大なイメージが強いベートーヴェンの作品の中で、この曲は、軽やかで、柔らかな表現に溢れています。

ピアニストがどのようにオーケストラと「対話」を重ねて演奏をしていくかが楽しみな聴きどころです。審査委員長の野島稔先生によると、「向き不向きはあってもピアニストはこの2曲のどちらかは良い演奏ができないといけない！」と。予選から、出場者がどちらの曲をエントリーしているかに注目してみると面白いですね。

ヴァイオリン部門では、最初にヴァイオリン協奏曲の課題曲3曲から1曲を選択します。

ストラヴィンスキーのヴァイオリン協奏曲、プロコフィエフのヴァイオリン協奏曲第1番、バルトークのヴァイオリン協奏曲第2番はいずれも20世紀の作品です。

次に、新たな試みとなるコンサートマスターとしての演奏があります。ブラームスの交響曲第1番とR. シュトラウスの交響詩「ツァラトゥストラはこう語った」の指定の箇所をコンサートマスターの席に座って演奏します。課題曲と指揮者の意図を良く理解した上で、オーケストラ全体をリードし演奏をまとめ上げていく力量が試されます。第1回優勝者のスヴェトリン・ルセフ氏、第2回入賞の有希・マヌエラ・ヤンケ氏は現在コンサートマスターとして活躍されていますし、今回2度目の出場予定であったロシアのフョードル・ルディン氏はこの度ウィーンフィルのコンサートマスターに内定しました。審査委員長の堀米ゆず子先生によると、「大規模なコンクールとしては世界で初めての試み」とのこと。ソリストに留まらずコンサートマスターの可能性を会場で聴くことが出来るのは大変貴重です。

尚、第7回仙台国際音楽コンクールの課題曲の詳細については、

https://simc.jp/7th_competition/ をご参照ください。魅力満載のセミファイナルに乞うご期待です！

今回は、4人の団員の方々に、コンクールに関する思い出や目前に迫った第7回仙台国際音楽コンクールに寄せる思いを熱く語っていただきました。



菊池 公佑 さん (トロンボーン首席奏者)

第2回(2004年)から参加して、通算で5回経験してきました。これまでの冊子を見て振り返っても、ひとつひとつが世界レベルの演奏であったことが鮮やかに思い出されます。サポートする立場としては相当なエネルギーを使いますが、その分愛情が入っていきました。世界各国から集まってきた出場者の真剣な演奏に熱意をもって応えてきましたので、我々オーケストラ自体も成長してきた実感があります。未来の名演奏家たちが奏でる協奏曲の名曲の数々を5月から6月の間に集中的に聴けるのは、全国でもここ仙台しかありません。しかも3年に1度しかないチャンスですので、音楽が好きの方は見逃すことなく、楽しんでほしいです。聴衆、オーケストラ、出場者が家族ようになって楽しい時間を共有できる喜びが待っています。出場者の皆さんには必死にサポートします。暖かく包むつもりでお待ちしております。思う存分に力を発揮できるように願っています。

戸田 敦 さん (フルート首席奏者)

私は、第1回(2001年)のコンクールから参加しています。入団(2000年)してすぐでしたので、自分もオーケストラに慣れていないし、持っているレパートリーもほとんどない状態で、膨大な数の協奏曲を演奏するのは、ものすごく大変だったことを覚えています。出場者は人生が懸っているので、仙台フィルとしても失敗できない状況にあって緊張しました。印象に残っているのは、第1回のピアノ部門で優勝したジュゼッペ・アンダローロさんです。イタリア人らしく準備が不足していましたが(笑)、リハーサルごとに良くなって、本番はものすごい演奏になったのには驚きました。ファイナルには、やはり上手でバランスが取れている人が残るので、聴き応えがあります。一方、予選では個性あふれる演奏が多く、自分好みの演奏家にめぐり合えるという楽しみもあって面白いので、聴衆の皆さんも予選の演奏から聴いてもらいたいと思っています。



竹内 将也 さん (ティンパニ&パーカッション首席奏者)

これまでのコンクールで特に印象に残っている出場者は、ヴァディム・ホロデンコさん(第4回ピアノ部門優勝)ですね。彼がファイナルで弾いたラフマニノフ(第2番)はすごく音が多く、和声も複雑ですが、その一つ一つの音が舞台の一番後ろでティンパニを演奏している私のところまで非常にクリアーに聞こえてきて、どのように弾きたいかということが明確に伝わってきました。あまり指を動かしているようには見えなかったのですが(笑)。また、緊張している素振りもないし、リハーサルでも一回通しただけでもう大丈夫という感じでした。並外れた才能の持ち主で、本番も素晴らしかったです。これまで舞台上立っていて、聴衆の皆さんが若い音楽家を応援しようという視線を強く感じてきました。それが出場者にとって、ものすごく大きな励みになっています。今回のコンクールでも、応援する場面に立ち会えるという刺激を是非味わって、楽しんでいただきたいと思います。

(今回ホロデンコさんは審査委員としてコンクールに参加されます)

小山 あずさ さん (第1ヴァイオリン奏者)

第5回仙台国際音楽コンクールの際、審査委員によるマスタークラスを受講しました。仙台に行ったのはこのときが初めてだったのですが、世界で活躍するヴァイオリニストたちが集まって国際コンクールが開催されることに、まだ学生だった私は圧倒され、とても緊張していたのを思い出します。それから仙台フィルの団員になり、コンクールには前回(第6回)から参加しています。入団して日が浅かったこともあり、どれも初めて演奏する曲目ばかりだったので譜読みが大変でしたが、同世代の出場者から多くの刺激をもらい、とても充実した時間を過ごしました。コンクールは順位がつく場ではありませんが、一人一人の音色や表現の違いを聴き比べることができて、コンサートに来たような気持ちで楽しめると感じています。今年も仙台フィルとして全力でサポートしながら、たくさんの名演に出会えることを楽しみにしています。



ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！！



第7回仙台国際音楽コンクール期間中の関連事業

出場者の演奏をより身近に楽しんでいただけるコンサートを開催します。ぜひご来場ください。
(次の審査に進めなかった出場者によるコンサートです)
(入場無料、事前申し込み不要。直接会場へお越しください)

◆チャレンジャーズ・ライブ

	日程	会場	時間
ピアノ部門	5月30日(木)	エル・パーク仙台 ギャラリーホール	19:00開演
	6月 5日(水)	日立システムズホール仙台 シアターホール	14:00開演
ヴァイオリン部門	6月20日(木)	せんだいメディアテーク オープンスクエア	19:00開演
	6月26日(水)	日立システムズホール仙台 シアターホール	14:00開演

◆市民が企画するコンサート

	日程	会場	時間
ピアノ部門	5月31日(金)	JR仙台病院ロビー	15:00開演
	6月 2日(日)	東北電力グリーンプラザ アクアホール	12:00開演
ヴァイオリン部門	6月21日(金)	医療法人社団 初心会 杜のホスピタル・あおば デイケアホール	14:30開演
	6月21日(金)	JR仙台病院ロビー	15:00開演

第7回仙台国際音楽コンクール開催記念グッズ

コンクール期間中、地元ゆかりのあるすてきな記念グッズを会場にてお求めいただけます。
文房具や飲み物など、限定商品や前回からバージョンアップしたグッズもあります。
ぜひ、会場でお手に取ってご覧ください!

- ・オリジナルコースター 《仙台国際音楽コンクール事務局》
- ・4種類のデザインのドリップバッグコーヒー 《珈琲豆屋ベートーベン》
- ・お茶 7種セット 《一茶(iccha)》
- ・赤ワイン&白ワイン(ともに限定ラベル) 《秋保ワイナリー》
- ・純米酒&純米吟醸(ともにオリジナルラベル) 《森民酒造本家》
- ・きな粉(秘伝まめを原料にした香り高いきな粉) 《角田市太田農園》



MAP for the SIMC Contestantsの公開をしています!

仙台市内のレストラン、楽器店、見どころなど、コンクールで役立つボランティアおすすめの情報、地図を添えて掲載しています。

サイトURL: <https://simc-map.com/>

コンクールの公式WEBサイトからでもアクセスいただけます。



♪ 編集後記 ♪

今回は予選からしっかり各チャレンジャーの演奏を聴きたいと思います。
どんな素晴らしい演奏がきけるのか楽しみにしています。(早)

観客と出場者はお互いを必要としています。
お互いがそれぞれの役割を果たすと、誰もが音楽を楽しむことができます。
それを理解しながら、楽しく聴きましょう!
(Justin)

ボランティア参加は3回目ですが、今回は初めての広報部門です。毎回新しい試みで、常に進化を続ける仙台国際音楽コンクールを新しい視点で満喫できると思います。(石川)

心理学で、人は“慣れていることをするとき、緊張やプレッシャーが強い方がうまくいく”(Y・Dの法則)との事。又、緊張状態で物事をうまくやり遂げるには、何度も練習して「慣れる」ことが大切なんだそうです。私も早く慣れなすか。(勝)

プロの演奏家の音楽愛というのを感じました。会話そのものが心地よい音楽に聞こえたのは、私だけだったでしょうか。ここに至るまで歩まれてきた音楽道の一部も垣間見れたので、これまで以上に演奏の音にスピリットやヒューマンが聞こえてきそうで、楽しみです。(大坪)

ボランティアに参加して3回目のコンクール。ボランティアとして聴衆として、誰よりも楽しみ尽くしたいです。(岡)

コンクールのチケットをローソンで発券しすぎて店員さんに変な目でみられました。店員さん、大変お手数をおかけしました。(Y#)

コンクール出場者の皆さんが、練習の成果を十分に発揮できるよう応援しています! すてきな演奏を聴くのが今から楽しみです♪ (佐々木)

初めてコンチェルトの作成に参加させて頂いて、記事原稿の作成からデザイン制作、校正まで、皆さんの熱意と努力をそばで感じることができました。(事務局 H)

広報活動は初めての経験。ボランティアの方々の熱意に後押しされながらの日々です。コンチェルトたくさんの方に読んでいただきたいです。(事務局 K)

発行：第7回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア